

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	300C SOLID	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.580	ΔRG	0.055	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：300C SOLID

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

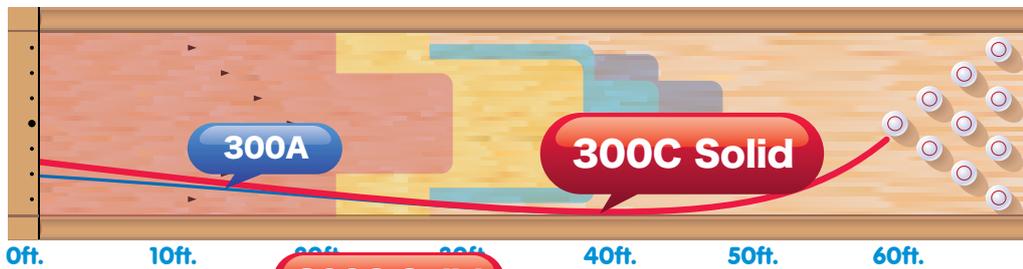
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：300A

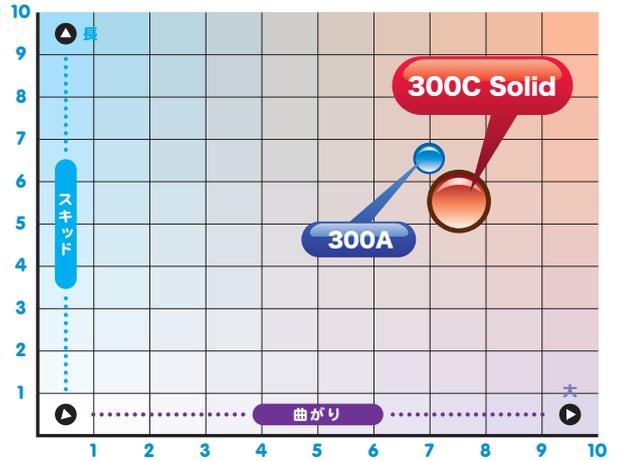
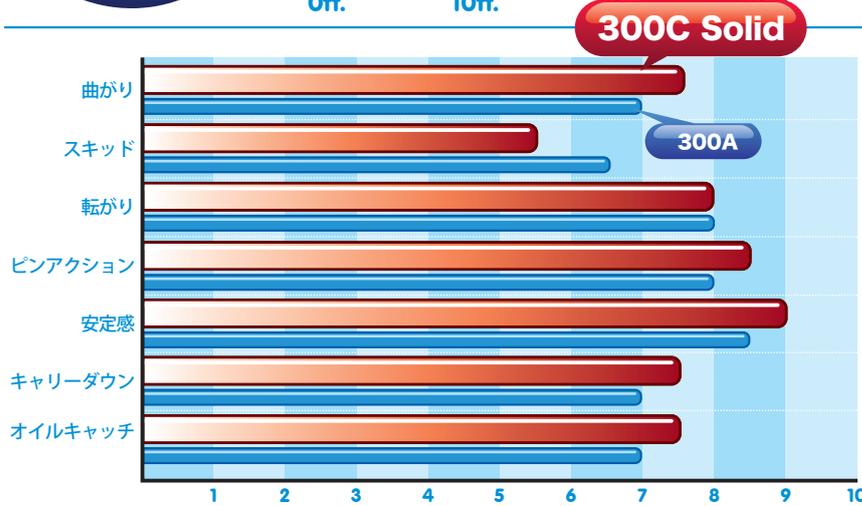
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ヘビー
ミディアム
ライト
バフ



ボールの評価

TRACK社300Cと聞いて、「以前にも発売したのでは」と疑問を持たれた方も多いことでしょう。今回の300CはLMP GEN1の PearlカバーストックからGen MC(Moderate Continuation)のソリッド系カバーストックになり。リアクション形態を決めるコアも300CのTrack Symmetric CoreからDumbbell Coreに変更されています。

今回は”3”シリーズの300Aと比較しましたが、300AのGen MA(Moderate Angle)カバーストックと比べると”3”シリーズでも強めのキャッチを魅せた300Aよりはるかにキャッチ力があり、Solid系カバーストックの恩恵は300Tまではいかないものの、”3”シリーズのカバー領域でも300Tに次ぐ強さを感じることができました。3シリーズでも上位のカバーに分類された300C Solidのリアクションイメージは、Solid系リアクティブ特有の滑らかなスキッドとHookからRollにかけての強さが十二分に発揮されていて、そのリアクションを見る限り、新しく採用された縦長のDumbbell CoreのRG:2.58 ΔRG:0.055のやや高めΔRGの意図がリアクションで表されています。

少し前から感じているように、300Aのように現代のカバーストック事情はTRACK社がナンバーシリーズを打ち出してからの年月から比べものにならない程進化しており、カテゴリーでもナンバー毎の領域は横に幅広くなってきています。当時5シリーズであっても今では”4”か”3”と同じぐらいに収まるかもしれませんし、逆に”3”であっても”5”のシリーズ近くに感じるほど領域は重なりあってきています。良い意味でパフォーマンスの底上げが出来ていることでもあります。

300C Solidはしなやかに曲り、ブレのない安定した曲りは派手さよりも確実性を追求できます。

特記事項

”3”シリーズのSolidバージョン。コントロールしやすく、幅広いコンディションでの投球が可能。スコアメイクするのならば、このボールは見逃せません。